

# 横浜技術士懇話会

[横浜技術士懇話会\(NEW\)](#) のHP

## 2026年3月会報 (#504号)



### ◇2026年3月講演会のお知らせ (第504回)

**開催日時** : 2026年3月13日(金) 14時00分～16時45分(13:55分に開錠)

**開催場所** : [かながわ県民活動サポートセンター](#) 7階 708 会議室

**演 題①** : 横浜国立大学フォーミュラプロジェクト最新活動報告

**講演時間①** : 14時10分～15時25分

**講演概要①** : 本プロジェクトでは、学生フォーミュラ日本大会への出場を目標に、車両の企画から設計、製作、さらにはチーム運営までを学生主体で行っています。一昨年は厳しい結果に終わりましたが、活動目的の見直し、人員増加を経て、昨年は総合7位を達成することができました。本講演では、これまでの取り組みとその成果をご報告するとともに、今年度のプロジェクトの方針についてご紹介いたします。

**講 師①** : 鈴木瑛介 氏 横浜国大理工学部 機械EP 3年、阿部結衣 氏 横浜国大経営学部 経営学科 2年

**演 題②** : Robo+ism 最新活動報告

**講演時間②** : 15時30分～16時45分

**講演概要②** : 弊サークルは今年度で活動14年目を迎えました。今年度行った学内外にお

ける活動や、出場大会の結果および製作したロボットの説明を併せてご報告をいたします。加えて、現在進行中のプロジェクトの進捗状況と今後の展望についてご説明いたします。また、今年度は渉外・広報活動に力を入れ、横国基金のプロジェクトへの参加を行いました。さらに、長期間の活動に向けて拠点の移転を行いましたので、その経緯も併せてお伝えいたします。

**講師②**：飯島悠太郎 氏 横滨国大理工学部 機械工学 E P 2 年、岩田航典 氏 横滨国大理工学部 機械工学 E P 2 年

\*\*\*\*\*

## ◇2026 年 2 月講演会の報告(第 503 回)

**開催日時**：2026 年 2 月 13 日（金）14：00～16：40 [40 分間：質疑応答]

**開催場所**：[かながわ県民活動サポートセンター](#) 7 階 705 会議室

**演 題**：既存建築物の改修 ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）事例

**講演概要**：2050 年カーボンニュートラルの実現には、日本のエネルギー消費量の約 3 割を占める住宅・建築物の省エネ取組みが不可欠。2015 年建築物省エネ法の施行以降、昨年 4 月には省エネ適合が全面義務化され、今年 4 月には中規模建築物の省エネ基準も引き上げられる。2030 年には新築建築物全体で「ZEH・ZEB 水準の省エネ性能の確保を目指す」ことになっている。今回は非住宅建築物に的を絞って省エネ施策の変遷と最新動向、WEB プログラムを用いた省エネ計算、ZEB の考え方と実現方法などを説明。併せて国内最大規模となる既存庁舎ビルを改修して ZEB 化（2024 年 4 月に ZEB Ready 認証を取得、現在は改修工事中）する基本設計業務に技術コンサルとして携わった事例について、設計概要と苦労話を報告した。

**講 師**：小林仁三 氏

**講師略歴**：・1949.4 長野市生まれ ・1974.4 横国大化学工学科卒、理研鋼機（合併後トヨタ理研、現エルゴテック）に入社、設計部長・技術開発部長 ・1996.3 技術士（衛生工学/空調）取得、主に空調設備設計に従事、設計事務所出向多数 ・1983.4 ハウステンボス基本計画、1984.4～1995.5 品川インターシティ企画～実施設計、自社施工 2001.4 横浜国際客船ターミナル実大模型実験 ・2002.5～2011.3 退社し技術士事務所開設。日本橋三井タワー現場設計室・性能検証、コレド室町再開発基本設計、ESUM ツールでの CO2 排出量計算業務 ・2002.10～2019.3 専門学校中央工学校で建築設備講師 ・2019.3～住宅・建築 SDGs 推進センター/省エネサポートセンター相談員

**質疑応答**：①日本の ZEB(Zero Energy Building)設計は世界と比較して進んでいるの

か、元々どの国が最初にデザインしたのか⇒2006～2007年頃に欧米が取組み本格化。日本では2009年経産省・ZEB研究会報告書を契機にして、2015年空衛工学会や資源エネ庁・ZEBロードマップ検討員会からの報告・提言などが始まり。②現在進行形のZEB設計の具体例：省エネ52%達成(コストアップ分の工事費含む)(予算化と諸経費見直しをした)を紹介して頂き、大いに感心した。何が大きく寄与しているのか⇒[空調熱源→仕様発注から性能発注に変更→要求性能の実現には検証が必要]。③建築物のエネルギー消費性能向上を図るには⇒建築物省エネ法を制定。④日本のエネルギー消費量で建築分野は何割なのか⇒一次エネルギーと二次エネルギーを考慮すべきだが、一次エネルギー消費量の約3割を占めている。⑤製造業のエネルギー消費量の内訳は?⇒食料品220pj (peta-joule)/year、化学工業160pj、窯業・土石120pj、輸送業100pj、プラスチック90pj

レジュメ：[ここ](#) をクリックしてスクロールすればPDFをご覧になれます。ダウンロードも可能。

## ◇第503回講演会の参加/不参加通知一覧(敬称略)

2026/1/30に案内、2月5日にリマインドで案内。

講演会	懇親会	No	参加通知	返信	No	不参加通知	返信
講師	○	1	小林仁三	1/30	1	武藤功二	1/30
○	○	2	鈴木弥栄男	1/30	2	山川隆	1/30
○	○	3	安藤貞利	1/30	3	岡田庸利	1/30
○	○	4	若松潤一	1/30	4	金子満男	1/30
○	○	5	高橋淳	1/31	5	松野進	1/30
○	X	6	齋藤一夫	1/31	6	末永裕一	1/31
○	○	7	小坂幸夫	2/2	7	山本陽一	1/31
○	○	8	西田雅典	2/5	8	大森常明	2/1
○	○	9	小波盛佳	2/5	9	Robo+ism	2/2
○	X	10	佐倉勇	2/5	10	小澤明夫	2/2
○	X	11	岡部暁男	2/5	11	Formula-P.	2/5
○	X	12	廣田勝彦	2/6	12	金盛正至	2/6
X	X	13	竹村昇	2/10	13	栗山正明	2/6
○	○	14	矢田宏樹	2/10			
○	○	15	樫田和夫	2/12			
○	X	16	西海秀文	2/13			
○	○	17	永井孝雄	2/13			
○	○	18	村田一郎	2/13			



\*\*\*\*\*

## ◇研修会の今後予定

○2026年4月10日（金）（第505回）7階705会議室

演題：「一学究の回想」

講師：嘉納秀明氏

○2026年5月8日（金）（第506回）7階705会議室

演題：「食肉の畜冷効果を利用したモンゴル向け太陽光冷凍システム」

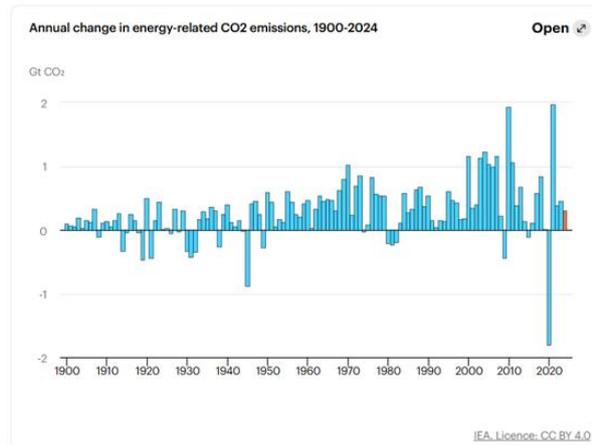
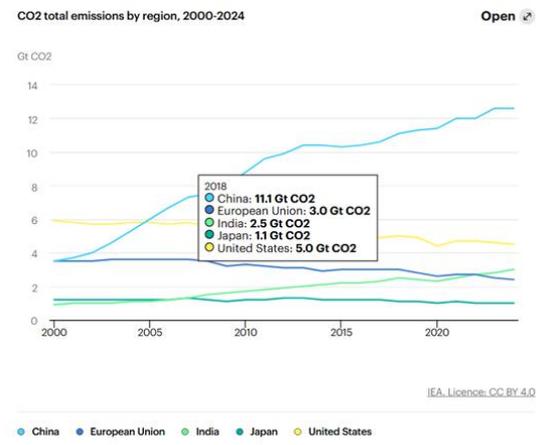
講師：樫田和夫氏

\*\*\*\*\*

## ◇編集後記

地球温暖化の影響は海水温の上昇へとつながり、地球の7割を占める海水の水蒸気発生量に關与して大氣の流れや海流の変化をもたらしていると科学者たちは警告を發している。實際に太平洋ではエルニーニョ現象などが常態化し台風が異常に發生し巨大化をもたらし、一方メキシコ湾やインド洋ではサイクロンが異常に發達、ユーラシア大陸・南北アメリカ・豪州では乾燥化・自然發火が頻發し、逆に豪雨など甚大な被害をもたらしている。日本に焦点を当てると、ジェット氣流の蛇行や黒潮・親潮の蛇行が影響して海水温が上がり、海産物收穫の地域性が

大きく変化し、農作物・果物・柑橘類・樹木などの植物相や受粉に寄与している蜜蜂などの昆虫や渡り鳥の生息域が変化しているようだ。 豪雨・渇水が年中繰り返されると今までなかった豪雪を2026年には経験してしまう。 それらの原因を地球規模で考えてみると、産業革命以降の温室効果ガス、特に二酸化炭素排出量増加が主であるというのが国際連合の気候変動に関する政府間パネル IPCC で断定されたにも拘わらず、それに異を唱える《氷河期と間氷期の周期に依存、地軸の変動、太陽のフレアなどが主要因だとする》学者たちや《原油をガンガン掘りまくれ！と世界を先導する》政治家たちがいるのも残念ながら事実である。 自国第一主義とか国連無視の考えは、人類が英知を集めてまた基本データを地道に集めて統計的に解析するなど、いままで培ってきた科学的な見方を尊重せず、自分たちが生きている間は何も問題ないという独りよがりだと言わざるを得ないであろう。 最後に IEA(International Energy Agency)のデータを示すが、経済大国の産業活動と資源開発の顛末、つまりエントロピー増加による罰を受けざるを得ないことが理解できると思う。



(文責 鈴木弥栄男)

発行：横浜技術士懇話会 YPEC(Yokohama Professional Engineers' Club)

HP 管理者：武藤功二 氏 発行責任者：鈴木弥栄男